

音のチカラ Power of Sound

# 音で絆づくり

音楽は、世界の共通言語。たとえ言葉が通じなくても、誰かと一緒に歌を歌ったり、楽器を演奏することで、笑顔が生まれ、お互いの距離が縮まったように感じるかもしれません。ここでは、音楽を絆づくりに積極的に活用しているグループをご紹介します。

## みんなが気軽に参加できるコミュニティ音楽の実現へ

コミュニティ音楽サークルは数多く存在しますが、障がいの有無に関わらず、人々が一緒に音楽を楽しめる場は、なかなかありません。ここでは、能力の区別なく、全ての人に音楽の場を提供する非営利団体の『Catch Music』のお2人にお話を伺います。



Catch Music  
Development Manager

**ティム・ロバートソン**  
さん

Tim Robertson

Catch Musicを創ろうと思われたきっかけは？

——まず、私は大学で音楽を学んだので音楽のベースがありました。そして、10年前、弟が交通事故で頭を怪我して障がいができてしまい、障がいを持つ

人たちが直面している様々な問題、特に頭の怪我や知的障がいを持つ人たちが、コミュニティの中で他の人に出会ったり、友だちを作る機会が少ないということに気付いたのです。障がいを持つ多くの人々は、友だちの数がとても少なかったり、他の人のようにコミュニティの中に出向くことが難しい現実があります。ですから、そもそものアイデアは、音楽を使って人々を繋げる手助けをしたいというところから始まっています。

「リハビリ」ではなく、障がいを持つ方がコミュニティの中に溶け込むのを助ける、ということですか？

——セラピーでもリハビリでもなく、治療でもありません。純粋に社交の場を作り、友だちを作る、ということに焦点を当てています。もし、人々に会って、新しい友だちができれば、それはとても健康的なことだと思うからです。

人々を繋げる、という目的のために音楽を選んだのは何故ですか？

——音楽は全ての人が好きなものだと思ったからです。楽器を演奏する人はたくさんいますし、歌を歌う人もたくさんいます。楽器を独りで弾くのもいいですが、他のミュージシャンと一緒に弾けば、更に楽しいと思います。また、誰もが心の中には音楽という言葉を持っていて、歌を歌えるし、それに反応します。それが音楽という共通言語だと思うのです。



Catch Music  
Program Coordinator

**ライアン・ルシャ・コント**  
さん

Ryan Rusha-Conto

Catch Musicの主な活動内容は、何ですか？

——音楽のセッション（一緒に演奏すること）です。以前は、“ジャム・セッション（即興演奏）”という言葉を使っていたのですが、それだと即興で演奏し

なければいけないと勘違いする人が多かったので、名前を「キャッチ・ミュージック・セッション」に変更しました。パース近郊の5箇所で、各グループ20～30名の人々が音楽と一緒に演奏しています。各グループには、ファシリテーターと呼ばれるまとめ役がいて、どんな音楽を演奏するかを参加者と一緒に決めたり、楽譜を用意したりします。

Catch Musicのコンセプトを簡単な言葉で説明してください。

——人々が繋がる場所を作り、一緒に音楽を演奏したり、友だちを作ったりすることに活用してもらいたい、と考えています。年齢や性別、音楽の能力などに関わらず、全ての人にオープンなグループとして機能することに焦点を当てています。

ライアンさんは、どうしてこの活動に参加されたのですか？

——最初はミュージシャンの一人としてこの活動に参加し始めました。音楽は、ユニバーサルな言語ですが、特に障がいを持った人が気軽に外向いて音楽を演奏できる所は多くありません。しかし、単に障がい者のためだけの音楽の場ではなく、障がいを持たない一般の人や、ミュージシャンなども含めた、“全ての人”と一緒に演奏できる場を作っていきたいと思いました。“障がいを持つ人々（people with disabilities）”に限らず、“全ての能力を持った人々（people with all abilities）”に参加してほしいと考えています。

## Catch Music

音楽の好きな全ての人々が、その情熱を他の人たちと分かち合う機会を提供するために創られた、非営利団体。これまで数々のコンサート出演やCDのレコーディングも行なってきた。現在、Canning Vale、Leederville、Melville、Subiaco、Beechboroの5箇所で週に1度、各グループのメンバー20～30名と一緒に音楽を演奏している。どんな能力の、どんな状況の人でも、興味のある全ての人を歓迎している。

ウェブサイト：[www.catchmusic.org.au](http://www.catchmusic.org.au)

お問い合わせ：[info@catchmusic.org.au](mailto:info@catchmusic.org.au)



障がいを持つ方々は、この活動の中でどう感じていると思いますか？

——音楽と一緒に演奏する時は、障がいを持っていても、いなくても、全ての人々が平等だと感じられていると思います。多くの人々が「ここで音楽を演奏し始めて、人生が変わった」と言っています。世の中から隔離されていたと感じていた人々が、たくさんの人と出会い、音楽を演奏して情熱を共有するようになったり、セッションの日が待ち遠しく、毎朝起きると「今日は何曜日？」と思ったりするなど、活動の日を楽しみにして生きようになったという話も聞いています。練習後にみんなでコーヒを飲んだり、まるで大きな家族のように感じている人も多くいます。みんな笑顔で、とてもフレンドリーなので、誰もがとても安全な場所にいると感じられているはずです。

今後、Catch Musicが目指すところは？

——人々が、普段の生活から離れて、友だちを作ったり、音楽と一緒に楽しむことのできるオアシス作りが目標です。

そして、もっと多くの場所で演奏活動を行ない、より多くの人々が参加できるようにしたいと考えています。コンサートやCDレコーディングも含めて、多くの音楽プロジェクトを実現させることも計画していきたいと思っています。

「音の力」についてお聞かせ下さい。

——音は、人と人とを繋げることがができます。音楽をグループの中で演奏する喜びというのは素晴らしいものです。自分が大きなものの一部であると感じることもできます。その感覚は、音楽を聴くだけの時よりも、一緒に演奏した時にもっと強力になります。音楽は、人々を一つにする力をもっていると思います。